

- 問1 2022年の統計において、就業者に占める第3次産業の割合が高い都道府県の上位には、東京都や大阪府、神奈川県といった都市部のほか、沖縄県や北海道などの地域が含まれています。これらの地域で第3次産業の割合が高い主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 豊かな森林資源や水産資源を活用し、建設業や加工業といった第2次産業が発展しているため。 | 2. 大規模な工場が集まり、自動車や電子機器の生産などの製造業が盛んに行われているため。 | 3. 人口が密集する地域での商業や金融業、あるいは観光資源を活かしたサービス業が活発であるため。 | 4. 広大な土地を利用した米作りや酪農など、第1次産業による食料供給が経済の中心となっているため。 |
|--|--|--|---|
- 問2 日本の農業において、都道府県別の産出額の割合が、北海道が約8.9%で第1位となり、続いて千葉県が約7.3%、茨城県が約7.2%、熊本県が約5.0%、愛知県が約4.8%となっている農産物の区分として、最も適切なものはどれですか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|------|---------|
| 1. 果実 | 2. 野菜 | 3. 米 | 4. 工芸作物 |
|-------|-------|------|---------|
- 問3 1970年から2015年にかけての日本の水産業の推移について、遠洋・沖合・沿岸漁業の漁獲量が減少傾向にあるなかで、国内需要を補うために急激に増加した数値はどれですか。 (2024年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|------------|------------|-------------|
| 1. 日本国内の真珠の生産量 | 2. 漁船の保有台数 | 3. 水産物の輸入量 | 4. 漁業従事者の総数 |
|----------------|------------|------------|-------------|
- 問4 日本国内の都道府県別訪問率を調査した統計において、栃木県の日光、岐阜県の白川郷、広島県の厳島神社や原爆ドームがある地域は、フランスなどの海外からの旅行者が訪れる割合が高い傾向にあります。これらの地域に共通して存在し、国際的な観光資源として外国人旅行者を引きつける要因となっているものは何ですか。 (2016年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|---------|-----------|-----------|
| 1. ラムサル条約登録湿地 | 2. 国立公園 | 3. 世界文化遺産 | 4. 世界自然遺産 |
|---------------|---------|-----------|-----------|
- 問5 日本の食料自給率の推移について述べた次の文のうち、野菜の統計的な傾向と、日本の主食の現状を正しく組み合わせたものを選びなさい。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 野菜の自給率は約100パーセントから約80パーセントへと低下したが、主食である米はほぼ100パーセントの自給率を維持している | 2. 野菜の生産量は1955年当時に比べて減少しているが、米の消費量が増えたため野菜の自給率は横ばいである | 3. 野菜の自給率は輸入の増加により20パーセント以下まで低下しており、これは肉類や大豆と同じ水準である | 4. 野菜の自給率は約80パーセントを維持しているが、主食である米も輸入自由化の影響で自給率が50パーセントまで低下した |
|---|---|--|--|
- 問6 日本の主要な貿易拠点の統計において、金や光学機器などの高価な品目が上位を占め、輸出総額も国内屈指である拠点の特色として、最も適当な説明を次の中から選びなさい。 (2019年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 背後に広がる北九州工業地帯で生産された大型機械や鉄鋼を、アジア諸国へ輸出する主要拠点となっている。 | 2. 航空機による輸送が主であり、重量に対して価格が高い品目や、緊急を要する貨物の扱いに適している。 | 3. 内陸部に位置する貨物ターミナルであり、主に鉄道を利用して近隣諸国へ加工食品を輸出している。 | 4. 船舶による大量輸送が主であり、鉄鋼や石油化学製品などの重工業製品の輸出に特化している。 |
|--|--|--|--|
- 問7 1960年と2000年代後半の日本の国内輸送を比較したとき、旅客輸送（億人km）と貨物輸送（億トンkm）の推移について共通して述べられる状況として、正しいものはどれですか。 (2017年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 貨物輸送において、1960年当時は航空機が輸送の主役であったが、現在は船舶がその役割の大部分を担っている。 | 2. 旅客・貨物ともに、1960年当時に最も高いシェアを占めていたのは自動車であり、現在は鉄道がその役割を代替している。 | 3. 旅客の輸送量は増加したが、産業構造の変化によって貨物の輸送総量は1960年よりも減少している。 | 4. 旅客・貨物ともに輸送の総量は1960年より大幅に増加しており、旅客では航空機の、貨物では自動車の役割がそれぞれ大きくなっている。 |
|--|--|--|---|
- 問8 地元で生産された農林水産物を、その地域の中で消費する「地産地消」という取り組みによって期待される効果として、最も適切なものはどれか。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 輸送距離が短くなるため、鮮度の高い食材を消費者に届けられるとともに、二酸化炭素の排出を抑えられる。 | 2. 海外からの安価な農産物の輸入を完全に停止し、国内の農家を保護することで食料自給率の向上を図る。 | 3. 必要な農作物をすべて自分たちで生産し、外部からの購入を一切行わないことで、食料の自給率を極限まで高める。 | 4. 気候や土壌などの自然環境に合わせ、最も適した作物を大規模に生産し、全国的な供給を安定させる。 |
|--|--|---|---|
- 問9 滋賀県で見られる「伝統工芸の体験」や「田んぼでの自然観察」を組み合わせた観光活動は、地域の活性化を目的としたエコツーリズムの一環とされています。このような活動が目指す「持続可能な社会」への貢献として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 地域の自然や文化の価値を再発見し、それらを適切に保全しながら将来にわたって活用し続けること | 2. 大規模なリゾート開発を行い、短期間でできるだけ多くの観光客を呼び込んで経済的な利益を最大化すること | 3. 地域の住民が受ける公共サービスを維持するために、観光客を対象とした新しい税制度を導入すること | 4. 観光客による自然への影響を完全になくすため、地域の貴重な資源への立ち入りを一切禁止すること |
|--|--|---|--|
- 問10 ある農産物の都道府県別生産量の割合において、静岡県が18.2%、長野県が18.0%、千葉県が8.9%を占め、これら3県で全国の約半分に達している統計資料があります。この農産物として正しいものを選択してください。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|----------|--------|
| 1. キャベツ | 2. りんご | 3. じゃがいも | 4. ぶどう |
|---------|--------|----------|--------|
- 問11 1995年から2010年にかけての日本の農業の変化について、農家数が約90万戸減少したことや、農業従事者に占める65歳以上の割合が約40%から約61%へと上昇した背景から推測される、現在の日本農業が抱える課題の説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 農産物の輸出額が増えたため、少人数の専業農家による大規模な農地の集約が行われている。 | 2. 機械化による生産効率の向上によって農家数が減少し、余った農地がすべて住宅地に転用されている。 | 3. 後継者不足と労働力の高齢化により、管理しきれない農地が耕作放棄地として増加している。 | 4. 若手の農業従事者が都市部から流入したことで、農地を拡大するため大規模な開墾が進んでいる。 |
|---|---|---|---|
- 問12 2000年から2015年にかけての日本の小売業における統計データにおいて、百貨店とコンビニエンスストアの店舗数および販売額の推移を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 百貨店、大型スーパー、コンビニエンスストアのすべての業態において、店舗数と販売額は一貫して増加傾向にある | 2. 百貨店は店舗数が減少したが販売額は増加しており、コンビニエンスストアは店舗数・販売額ともに減少している | 3. 百貨店は店舗数・販売額ともに増加し、コンビニエンスストアは店舗数・販売額ともに減少している | 4. 百貨店は店舗数・販売額ともに減少し、コンビニエンスストアは店舗数・販売額ともに増加している |
|---|--|--|--|